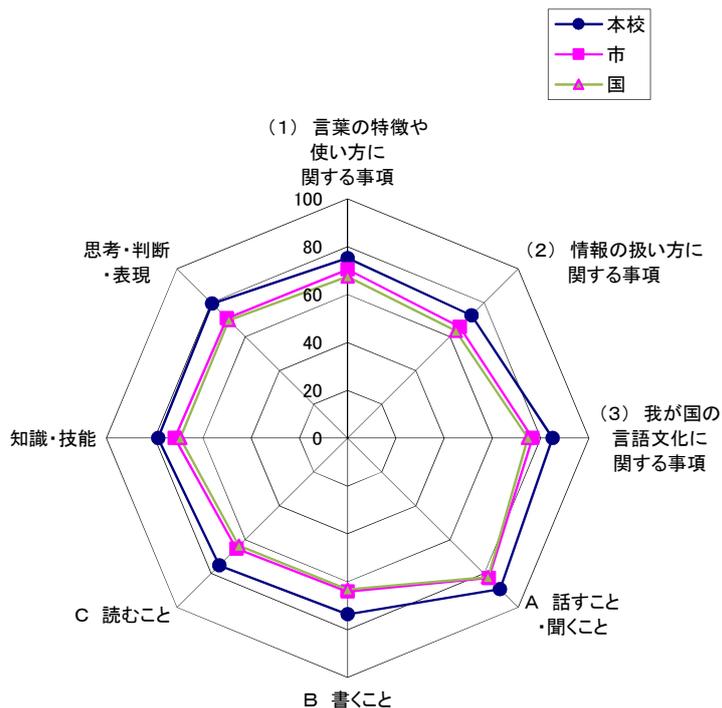


宇都宮市立泉が丘中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	75.2	70.5	67.5
	(2) 情報の扱いに関する事項	72.6	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.9	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	89.2	82.6	82.2
	B 書くこと	73.6	64.1	63.2
	C 読むこと	75.2	65.3	63.7
観点	知識・技能	78.6	71.7	69.4
	思考・判断・表現	79.5	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

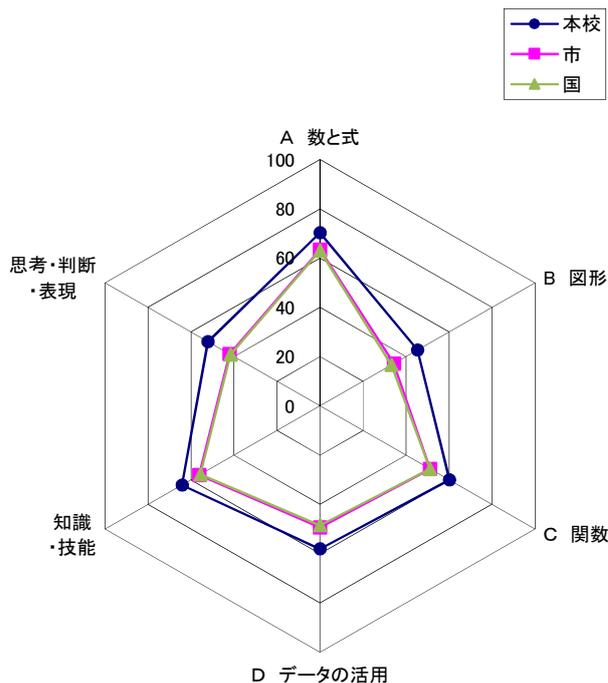
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
		○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○「落胆する」という語句の意味や「おし量る」の漢字の書きについての「表現の技法について理解する」設問では、全国平均を7ポイント以上上回った。	基礎的・基本的な語句を正しく使えるよう、ワークシートやノートを書く活動の中で日常的に指導していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	○文章を読み、示されている情報と情報の関係について理解する設問ではいずれも全国平均を上回っている。	教科書などの文章を読む際、展開や構成の流れ、意味段落の役割などを確認する学習活動を取り入れていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○すべての設問で全国平均を10ポイント程度上回っている。読み取ったことを知識や経験と結び付け、考えを述べる設問では条件を満たしながら文章を書けている。また、古典の語句に関する設問でも正答率が高かった。	条件を踏まえながら自分の考えを文章化する学習活動を、国語の授業だけでなくそれ以外の様々な場面でも取り入れていく。また、古典の授業においては歴史的仮名遣いの読みなど、語句の基礎的な知識を身に付けられるよう、音読を取り入れていく。
A 話すこと・聞くこと	○この領域のすべての設問で正答率が全国平均を上回っている。インタビューの場面を想定し、質問の内容を考えたり、効果的な質問を考えたり、まとめとして自分の考えを述べたりすることができた。	グループでの話し合い活動などにおいて、目的や場面に応じて質問する内容を検討することや、知りたい情報に合わせて効果的に質問することを意識するよう指導していく。
B 書くこと	○この領域のすべての設問で正答率が全国平均を上回っている。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができた。	文章を書く場面において、読み手の立場に立ってより分かりやすい文章を書くという意図を明確にして、構成を考えたり推敲したりする活動を取り入れる。
C 読むこと	○この領域のすべての設問で正答率が全国平均を上回っている。特に表現の効果についての設問では15ポイント以上と大きく上回っている。また、要旨を捉えたり、それを踏まえて考えを述べたりできた。	文章を読む場面において、文章の要点を押さえたり簡潔な言葉でまとめたりする活動を行う。また、表現の工夫に気づいたり、実際自分でも工夫を取り入れて文章を書くことでその効果を考えたりできる活動を取り入れる。

宇都宮市立泉が丘中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	70.3	63.4	63.0
	B 図形	45.4	34.3	33.2
	C 関数	60.2	51.2	51.2
	D データの活用	58.1	49.4	48.5
観点	知識・技能	64.2	56.2	55.7
	思考・判断・表現	52.2	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

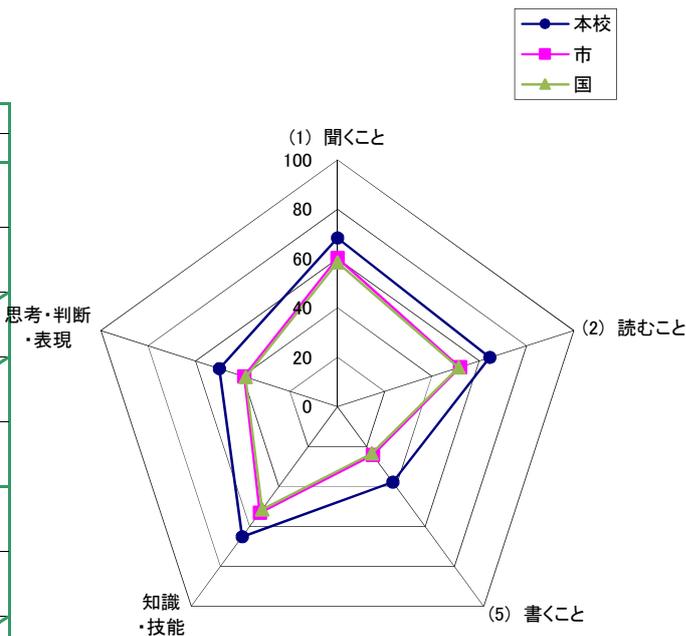
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率は、全国の平均よりも7.3ポイント高い。自然数を選ぶ設問において、全国の平均正答率より1.8ポイント下回っている。</p> <p>○計算をすること、式の意味を理解し、説明することがよくできている。計算問題をたくさん練習してきたこと、疑問に思ったことや気付いたことの理解を深めている生徒が多い。</p> <p>●自然数をすべて答える問題で、-5、0を含めて答えた割合がかわせて41.9ポイントであった。言葉の意味の理解について課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、基本的な計算の定着に向けた演習を継続するとともに、生徒の状況に応じて、複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう、個に応じた指導の充実を図る。 ・グループでの話し合い活動を取り入れ、答えまでの過程や考え方などを説明する場面を設定し、1つの考え方だけでなく他の考え方を聞き、多角的な思考を身に付けさせたい。
B 図形	<p>平均正答率は、全国の平均よりも10ポイント以上高い。すべての設問において、平均正答率は全国の平均より上回っている。</p> <p>○三角形の合同を証明する設問では、全国よりも13.6ポイント上回っている。条件や書き方を丁寧に扱った成果であると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も補足問題を多く取り入れ、知識の定着を図る。 ・図形においては、実物やICT機器を活用し、図形の見え方の変化などの理解を深める活動を取り入れる。 ・証明や説明をする問題では、手順だけでなく、証明完了までの道筋を立てることに注力させ、見通しを立てることの大切さを理解させたい。
C 関数	<p>平均正答率は、全国の平均よりも9ポイント高い。すべての設問において、平均正答率は全国の平均より上回っている。</p> <p>○与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取る設問では、全国より14.4ポイント上回っている。変化の割合の意味やグラフや表と関連付けて、値の変化による特徴を取り上げた成果であると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、実際にグラフを描かせたり、グラフの特徴や表・グラフ・式から読み取れることを説明させたりする活動を通して、関数の知識と理解を深めさせたい。 ・「自分がどのように考え解いたか」発表させたり、グループ学習や言語活動を多く取り入れたりと、生徒自身が説明する場面を多く設定し、解答の過程に焦点を置いた指導を行う。
D データの活用	<p>平均正答率は、全国の平均よりも9.6ポイント高い。すべての設問において、平均正答率は全国の平均より上回っている。</p> <p>○箱ひげ図のデータの読み取り問題の設問においては、全国の平均正答率を6.9ポイント上回っている。授業で箱ひげ図を作図し、理解を深めた生徒が多かったからであると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、頭で考えるだけでなく、データを視覚化したり、まとめたりと、読み取っていく場面を多く取り入れ、理解を深めさせていく。 ・定期的に演習問題を実施し、復習できる機会をつくる。

宇都宮市立泉が丘中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	68.3	60.2	58.4
	(2) 読むこと	64.4	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	37.9	24.2	23.4
観点	知識・技能	65.2	53.1	51.5
	思考・判断・表現	49.9	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均に比べて8.1ポイント、国の平均に比べて9.9ポイント高い。</p> <p>○会話を聞いて必要な情報を聞き取り、適切なものを選択する問題は市、国の平均を大きく上回っている。</p> <p>●道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題においては、他の問題より市、国の平均との差が小さかった。</p>	<p>・機内放送や店内での会話、道案内など、特定の場面ならではの会話表現に慣れ、話の展開の予想がつくように普通の授業の中で、教科書の各Unitの後ろにあるLet's TalkやLet's Listenなどの指導をより充実させる必要がある。</p> <p>・聞き取る際、細かい部分にこだわらず、大まかな話の流れを掴ませるように指導していく必要がある。</p>
(2) 読むこと	<p>平均正答率は、市の平均に比べて12.6ポイント、国の平均に比べて13.2ポイント高い。</p> <p>○事実と考えを区別して読む問題や、社会的な話題について、短い文章の要点を捉える問題は市、国の平均より15.0ポイント以上上回っている。</p> <p>●日常的な話題について、短い文章をの概要を捉える問題においては、他の問題より市、国の平均との差が小さかった。</p>	<p>・文の隅々まで読み取ろうとするのではなく、問題に答えるために必要な情報を文章から素早く正確に探す力を身に付けさせたい。そのために、普段の授業から時を表す言葉や逆説のbutなどのディスコースマーカーに注目して読み進める指導が必要である。</p>
(3) 書くこと	<p>平均正答率は、市の平均に比べて13.7ポイント、国の平均に比べて14.5ポイント高い。</p> <p>○未来を表す肯定文や、相手に依頼する表現を正確に書く問題は市、国の平均よりおよそ20.0ポイント高い。</p> <p>●日常的な話題について、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書く問題は市、国の平均との差が4.5ポイントにとどまった。</p>	<p>・作文指導において、まとまりのある文を書くためにbecauseやso,butなどの接続詞を使って、理由などを含めて文を書けるように指導したい。そのために意見文などでは、自分の意見とは違う意見に対する反対の理由を書く練習をするなど、説得力のある文が書けるように指導する必要がある。</p>

宇都宮市立泉が丘中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べている」と回答した生徒の割合は84.8%であり、食育を通して、体を作るためにしっかり食べることは大切だと学べたからと考える。食に関しては、学校生活のあらゆる場面で、栄養教諭を中心として、学べる工夫がされている。

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した生徒が全国・栃木県の結果よりも高く、規則正しい生活をしている生徒が多いということがわかった。「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した生徒が全国の結果よりも高く、小さいころからの生活習慣が身についてきたということの表れであると考えられる。

●「自分には、良いところがあると思いますか」肯定的回答率、本校38.6%、栃木県40.2%、全国37.2%「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」肯定的回答率、本校45.7%、栃木県48.5%、全国40.0%と本校生徒の肯定的回答率が低かった。この2項目でも肯定的にとらえている生徒が少なく、自分を大切にしながら、素直な心を持って生活していると思われるが、生徒一人一人の物事に取り組む姿勢がさらに積極性ができるとよい結果につながるのではないかと考えられる。

○「人に役立つ人間になりたいと思いますか」と回答した生徒の割合は76.7%であり、人を思う心が身についており、思いやり及び優しい心を持った生徒が多いことがわかった。

○「学校に行くのは楽しい」と回答した生徒が全国・栃木県と比べて多く、全国では43.3%であったが、本校では47.6%であった。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」と回答した生徒も多く、全国では31.2%であったが本校では42.49%であった。生徒と教師の人間関係が良好であるため、よく相談できる体制になっていると考えられる。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、2時間以上と答えた割合は31.9%と栃木県、全国よりも約5ポイント高い。しかし、3時間以上となると4.8%であり、全国よりも約5ポイント低い。「土曜日や日曜日などの学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では3時間以上と答えた生徒は全国11.5%に対し本校は17.1%と高い。週末に多くの時間を取り予習復習の時間に当てている生徒が多いことが分かった。

宇都宮市立泉が丘中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
1. 自分の思いや考えを表現できる力の育成に向けた取組	・授業の最後に授業内容の「振り返り」を行うことで、自分の考えをまとめたり、説明したりできる力を付けていく。	・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫していた。」の設問に対する肯定的回答の割合は62.4%で、対県比-1.6ポイント、対全国比+0.3ポイントであった。また、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った。」の設問に対する肯定的回答の割合は76.7%で、対県比+3.9ポイント、対全国比+7.6ポイントであった。
2. 家庭学習の定着に向けた取組	・A Iドリル型学習アプリを活用し、家庭学習の充実を図る。	・「家で自分で計画を立てて勉強してる。」の設問に対する肯定的回答の割合は63.3%で、対県比+1.2ポイント、対全国比+8.3ポイントであった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「PC・タブレットなどのICT機器を、授業でしようした。」の設問に対する肯定的回答の割合が50.0%で、対県比-5.1ポイント、対全国比-11.1ポイントであった。	提供されているアプリを、授業に積極的に取り入れるよう、教職員の意識を高める。	校内で積極的にアプリを使ってワークシートを作成している教職員の事例を紹介するとともに、アプリに困り感を持っている教職員をサポートする体制を整える。